

自己検脈で病氣防いで

宮大とニシタチ取り組み

一斉月間

宮崎大の教授らでつくる「宮崎大学みやざき健康キヤラバン隊」は、脳梗塞など循環器疾患の発症が冬場



に次いで夏場が多い傾向にあることなどから、今年から8月を「夏の宮崎県民一斉検脈月間」に設定。自分で脈を測って予防につなげる「自己検脈」の周知に取り組んでいる。

同キヤラバン隊長を務める同大医学部の渡邊望教授によると、夏場の暑さで体内の水分が失われると血液がドロドロになり、脳梗塞などの発症リスクが上昇。

自己検脈で脈拍の乱れを調べることで、発症の原因となる「心房細動」の発見に

つながるといふ。

今年3月からは宮崎市の「ニシタチまちづくり協同組合」（齊藤友亮理事長）

も活動に協力。加盟飲食店ではカウンターに自己検脈のやり方を示したスタンドを設置するなどして、利用客に広めている。写真。

同市橘通西3丁目でスナック「Kazumi」を営む加賀和美さん(59)は、「興味を持ってくれるお客さんは多く、会話のきっかけにもなっている」と手応えを語る。齊藤理事長は「自己検脈の大切さとニシタチのハートフルさを発信する機会になれば」と話している。

(林慎次)